

アンケート締め切り：2022年4月1日（金）まで

※最後のページに意見・提案事項を記載し、用紙を切り取って提出してください。

常総生協2022年度に向けて

春の組合員討議資料

2022年1月26日 常総生協 理事会

常総生協 理念

【食は命（いのち）】 ～ものづくり 人づくり 地域づくり～

2022年度活動テーマ（案）

つくと食べるでつながろう ～私たちの地産地消～

2022年 常総生協第49回通常総代会 開催要項

日時：6月11日（土） 10：00～12：00

場所：常総生活協同組合 本部

※新型コロナウイルス感染状況に応じて書面議決を中心とした議決に切り替える場合があります。

常総生協第49回通常総代会で、新しい年度の活動を決めていきます。アンケートに答えて下さることで、常総生協の力になります。ご協力お願いします。

討議資料を基に「春の地区懇談会」を開催していく予定です。お気軽にご参加ください（後日、日程をお知らせいたします）。

回答用紙・WEBフォームでも回答できます。

○回答用紙

最後のページに意見・提案事項を記載し、用紙を切り取って提出してください。

○WEBフォーム

WEBフォームはQRコード（右）を読んで入力してください。もしくはこちら→
※ホームページにも掲載予定です。

春の討議資料アンケート2022



【1】2021年度 ふりかえり

2021年度をふりかえり、2022年度の活動方針作りに活かしていきたいと思えます。

■はじめに

○新型コロナウイルス2年目の脅威

世界的な新型コロナウイルスの感染拡大によって1年延期された東京2020オリンピック・パラリンピックの開催、岸田新政権の発足とその直後の衆議院議員総選挙、東日本大震災から10年、熊本地震から5年となる2021年。大きなニュースもありましたが、まだまだ「コロナ禍」の影響が色濃く残る1年でした。

新型コロナウイルスの感染拡大は、年始前後の第3波から8月の第5波へとピークの陽性者数が増加した一方で、ワクチン接種が進んだおかげか、第5波での死亡者数、致死率は改善がみられました。10月以降、国内の新規感染者数は落ち着きを見せており、このまま終息へ向かう期待と、海外での感染の再拡大傾向、新たな変異株で現在（2022年2月）第6波としてまん延防止措置が発令されています。新たな変異株であるオミクロン株はこれまでと違い、若年層への感染が多く子どもたちへのワクチン接種、ワクチン3回目接種と大きな転換を迎えています。

21年最大のイベント 東京2020オリンピック・パラリンピックは、感染状況の終息が見通せない状況での開催に世論が割れました。第5波と開催日程の重なりを考えると、選手や関係者に大規模クラスターなどを発生させることなくやり遂げたことは快挙といえるでしょうが、こうした大きなイベントの背景には、子ども達の行事（修学旅行、運動会、文化祭・・・等）中止、延期があったことは忘れてはいけません。飲食店だけでなく、子ども達にも大きな影響があり犠牲になっていると感じます。

守谷市では県内最速でリモート授業を開始しました。このため保護者（親）の生活状況も大きく変化しました。特に最初はリモートにつながるためのデバイスの立ち上げや、つなぎ方を保護者が覚えないと、子どもに教えられません。また、子どもが自分で立ち上げられるようになっても、お昼ご飯の準備をしないといけない。こうした状況からやむなく仕事を休まざるを得ない状況となり、生協の方でも人員不足となりました。

○東日本大震災から10年

2021年は東日本大震災から10年でした。つい「節目」という言葉が浮かびますが、復興を十分に成し遂げ、振り返ってみられるのとは違って、原発の廃炉、処理水の問題なども含め、今もさまざまに被災への対応の取り組みが続いています。

被災体験のフラッシュバックに配慮して、テレビ番組では、津波の映像を放送する場合には事前に告知を流すことがスタンダードにもなりました。防災意識を喚起するには実際の災害映像は説得力を持ちますが、無神経にそれを扱わないようにするテレビ番組の倫理観、こういったことがもう少し生活者に伝わるとよいと思えますし、私たちも配慮していく事を考えさせられます。

改めて、被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方のご冥福をお祈り致します。

○東海第二原発運転差止訴訟 水戸地裁一審判決 歴史的勝訴判決

2021年3月18日水戸地裁（前田英子裁判長）は18日、原告（住民側）の訴えを認めて、運転を禁じました。東京電力福島第一原発事故から10年、首都圏に唯一立地し、運転期間が40年を超えている原発。前田裁判長は「避難計画やそれを実行する体制が整えられていない」として再稼働を認めない判決を言い渡しました。司法は生きていた。再稼働を認めなかった。「勝訴」の旗が上がったときは原告の歓喜の声が上がりました。

日本原電は直ぐに控訴審の手続きをした為、現在高裁に向けて準備を進めています。まだまだ闘いは続いていきます。

○2022年に向けて

コロナ禍にあって、不安感・停滞感の解消されない1年でしたが、日経平均は2021年の年初2万7,000円台から始まって、9月14日には終値で3万0670円10銭と31年ぶり（1990年8月以来）の高値を記録、現在は世界的な新型コロナウイルスの感染再拡大傾向、オミクロン株の出現などで方向性が見えにくくなっています。上昇相場は生活者の肌感と乖離しており、国内の二極化や分断が一層進んでいる様に感じます。

■2021年度活動方針のまとめ

1. 2021年度活動テーマ「笑顔で育む免疫力」を各活動、他団体、組合員交流を通して実践していきます。
2. 食の問題に対して取り組む組合活動をしていきます。
3. いのちを育み、守る取り組みをしていきます。
4. 平和・環境・地域コミュニティの活動に取り組んでいきます。
5. 生産者・他団体との協同連携をすすめていきます。

1. 2021年度活動テーマ「笑顔で育む免疫力」を各活動、他団体、組合員交流を通して実践していきます。

■2021年4月「春のぬか漬け講習会」を実施しました。(参加者5名)

- ❖ 発酵が上手に進む気温となる季節にあわせ、(株) ケイミー・オフィスの青木さんを講師にお招きし、事前にお届けした商品とテキストを使用してオンラインでのぬか漬講習会を初めて開催しました。
- ❖ 講習会では、腸内環境を整える発酵食品についての座学とうれしいぬか床を使ったぬか漬けの実践講座を行いました。また、ぬか床を使った野菜以外のアレンジレシピ（魚・鶏肉）を紹介、漬物以外の利用方法についても情報発信を行いました。



参加した組合員の感想

「うれしいぬか床」に漬けると、食材がマイルドに変化して腸が喜ぶことを実感できたのには驚きました。家族の「美味しい！」の声に支えられて、毎日せっせとかき混ぜては漬け、野菜たちの居心地の良い家になりつつあります。過去二回、ぬか漬けは断念いたしました。今回受講して失敗の原因も解明もできましたし、ハードルも下げて下さったので、我が家の滋養食として作り続けていこうと思います。有意義なお時間を頂き有難うございました。(守谷市・Kさん)

■2021年5月「梅しごと&はちみつ講習会」を実施しました。(参加者8名)

- ❖ 6月からの青梅・漬け用梅の企画提案に向けて、5月に(株) 藤井養蜂場三浦さんを講師としてお招きし、オンラインにて開催しました。梅ジュース・梅酒・梅味噌などの梅を使った活用術、また免疫力アップの素材として「はちみつ」の活用術について学びました。
- ❖ 事前に鶏肉・レモン等「はちみつのレシピ」の食材を配り、参加組合員は具材の切り方やポイントなど質疑応答を交えながら、実際に調理しました。



- ❖ この時期ははちみつの原産国である「ミャンマー」の内政が混乱していた事から、ミャンマーの生産者の状況など報告もありました。

参加した組合員の感想

毎回楽しみにしている料理講習会。今回も旬の食材にはちみつを利用したレシピの数々を教わることが出来て、はちみつの概念が変わりました。小学いもはたまらぬ香りと色つやと美味しさに夕食時、再チャレンジした位です。参加型とあって、意見も飛び交いアットホームさにほっこりする場面もたまりません。小学いも、実は私も熱々を頬張ってやけどしてしまいました。(笑)
これからも家族の健康増進のためにはちみつを日常の調味料として利用していきたいと思いません。この度は本当に有難うございました。
(守谷市：Kさん)

■2021年10月「秋のぬか漬講習会」を実施しました。(参加者4名)

- ❖ (株)ケイミー・オフィスの青木さんを講師に事前にお届けした商品とテキストを使用してオンラインでのぬか漬講習会を開催しました。
- ❖ 講習会では、腸内環境を整える発酵食品についての座学とうれしいぬか床を使ったぬか漬の実践講座を行いました。

参加した組合員の感想

今までもぬか漬は続けてきましたが、知らなかった事など新たな発見もあり、とても勉強になりました。これからは、今日学んだ事を踏まえて美味しいぬか漬が作れるようにしていきたいと思いません。楽しい時間を有難うございました。
(龍ヶ崎市：Aさん)

■2021年10月「お魚品モニター会」を実施しました。(参加者3名)

- 講師：(株)ケイミー・オフィス青木様
- 水産商品の普及とより良い状態での供給に向け、実際に対象商品を利用した組合員から感想や改善してほしいポイントなどの意見をヒアリングしました。今回の対象商品は①寒ブリの切身(鳴門魚類)②ほたるいかの沖漬(山米)の2商品で実施。

2. 食の問題に対して取り組む組合活動をしていきます。

■2021年7月「地場の有機大豆プロジェクト」をスタートしました。

- 日本食には欠かせない大豆ですが、みそや醤油、豆腐などに使われる原料の多くはアメリカやカナダ、中国に頼っている現状です。国産はわずか6%しか自給率がありません。国産の大豆は、とても貴重。また平成30年から遺伝子組み換え表示制度が改定され、食用大豆については遺伝子組み換え大豆の「義務表示」となりましたが、加工用＝醤油やみそについては「任意表示」なので消費者には分からない状況です。
- 「自分たちが知らないうちに、知らないものを口にしてしまう時代がすぐそこまで来ている？」こうした懸念を解消するため、これまで八郷町(現石岡市)の生産者の方や、おきたま興農舎の青大豆をみそ大豆用として企画してきましたが、今年から農薬無散布・化学肥料不使用の大豆を生産者と一緒に育て、収穫しました。
- 将来的には、みそ用大豆をはじめ、醤油、豆腐、油揚げなど、日常食に欠かせない加工品を増やしていき、常総生協の組合員の皆様に企画提案していきたいと考えています。
- 8月～11月にかけては、組合員理事を中心に除草作業を実施し、草に負けないよう大豆畑の整備を生産者と一緒におこないました。
- 12月に収穫時期を迎え、3生産者から約500～600キロの大豆が収穫されました。次年度も



引き続き生産者と面積を増やしていけるよう検討を進めます。

3. いのちを育み、守る取り組みをしていきます。

■2021年11月「ゲノム編集学習会」を実施しました。(参加者21名)

2021年9月15日にサナテックシード社からゲノム編集高GABAトマトが厚生労働省を通じて認可され、一般販売がスタートしました。

ゲノム編集はDNAの類似した配列があると、目的ではないDNAを破壊することが起こりえます(オフターゲット)。政府はオフターゲットをしていないもののみを商品化すると話をしていますが、今は狙い通りのものを壊す(オンターゲット)ことが問題視されています。正確に狙えたとしても、できるのはその目的遺伝子の破壊だけで、破壊された遺伝子がどのように修復されるかまでは、想定しない変異が生まれる可能性は十分にあります。

有識者であるジャーナリストの印鑰智哉氏を講師としてお招きし、ゲノム編集の構造、世界と日本におけるゲノム編集食品の流通事情、また国内で起きているゲノム編集食品の動きなどを学びました。

後半は参加した生産者(農産・水産・加工)にて、生産者の会としての行動指針を検討し、次年度活動方針につながる議論をおこないました。

■「流星台プレイパーク」にて常総っこ応援団として、毎週木曜日(10時~14時)に活動しました。

- 「流星台プレイパーク連絡協議会」に参画し、登録団体同士・つくば市との連携をはかりながら、外遊びを広めると共に、地域の子育て応援、居場所作りに努めました。
- コロナ禍で在宅勤務が増えたことと同時に公園・公共施設の閉鎖などで、行き場のない親子の遊び場としての利用がありました。
- 親子煮炊き会は実施できませんでしたが、農作物の播種・収穫によって、命を育み、食の大切さを伝える取り組みを行いました。

■脱原発とくらし見直し委員会

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン(ZOOM)を活用して定期開催をしていきました。
- 巣ごもりの中、DVDの貸出、鑑賞を促す取り組みをしていきました。
- イノシシ肉の特産品について茨城県と懇談をしました。

■子どもたちの健康調査を関東子ども健康調査支援基金と協力しながら実施していきます。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大状況から、各会場ごとに検診の可否を判断しながら行っています。今後も検診が継続できるよう、関東子ども健康調査支援基金への寄付の呼びかけをしながら、検診体制への協力をしました。

■東海第二原発差止訴訟

一審判決は「勝訴」しました。控訴審に向けて、原告団世話人会にも事務局として参加していく事になりました。いっそうの協力体制をとっていきます。

4. 平和・環境・地域コミュニティの活動に取り組んでいきます。

■2021年7月「脱プラスチック学習会」を実施しました。(参加者21名)

近年プラスチックの消費、破棄は社会問題になっており、生協としても取り組むべき課題の一つです。食品に特化した勉強会・講習会は実施してきましたが、非食品(雑貨)の視点からの講習会はできていなかった事



から、生活アートクラブの富士村夏樹社長を講師にお招きし、脱プラスチック学習会を開催しました。

プラスチックの世界と日本の現状（廃棄量）や、マイクロプラスチックから検出される環境ホルモンなどを学びました。

■平和の集い

- 市民学習会「私たちの暮らしと憲法」「歴史を学ぼうー未来のために」の両講座をオンラインと少数での本部開催の併用をしながら継続して行いました。
- 「私たちの暮らしと憲法」は9月より内容をリニューアルし、より身近な憲法を学ぶ事ができるようになりました。
- 歴史を学ぼうでは、特別講演会「牛久入管で何が起きているのか」をZoomで開催し、組合員の枠を超えて、牛久入管の問題についてさらに詳しく学びました。

■ミャンマーの平和を祈って

- 2021年2月にミャンマーでクーデターが勃発しました。ミャンマーで現地の方々と共に過ごしてきた組合員さんからの提案・講師により、2021/5/22（土）「～みんなで関心を持とう～ミャンマーの歴史と今を知る 学習会」を開催しました。
- ミャンマーの方々の想い・状況を知り、私たちに何ができるかを考え、千羽鶴を作成。10000羽を超える折り鶴を1000羽ずつ束ね、ミャンマーに送りました。
- 1月末、船便によりミャンマーに到着し、現在、ヤンゴン市内で飾られています。

5. 生産者・他団体との協同連携をすすめていきます。

茨城、千葉の県生協連、生協ネットワーク21、日本有機農業研究会、フードバンク（茨城、ちば）、JFSA、各友好生協や他団体と協同組合間協同として連帯した取り組みを行いました。

（主な連帯活動の内容）

生協・団体名	内容
県生協連（茨城、千葉）	災害、学生食料支援、地域の中でのたすけあいに取り組みました。
生協ネットワーク21	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模のこだわり系生協として交流を図り、情報共有を行いました。 ・小規模のこだわり系生協の生き残りをかけて、事業の連帯を協議しています。 →生協ネットワーク21加盟している関東の4生協（常総生協（茨城・千葉）、よつ葉生協（栃木）、自然派くらぶ（東京）、ナチュラルコープヨコハマ（神奈川））で農産調達・企画をする為の共同の会社としてコープ有機関東支社を立ち上げました。今後、4生協でこだわり生協として事業連帯を組んでいくためのロードマップ作成の打ち合わせを開始しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・共通のテーマ「遺伝子組み換え、ゲノム編集、農薬、種」を課題とし連帯しています。
日本有機農業研究会	有機農業推進、生産者育成、生産者と消費者の関係づくりについて共に取り組んでいます。
フードバンク茨城	コロナ禍における大学生の食の支援・子ども支援プロジェクトなど連帯して活動しました。
JFSA	国境を越えて、パキスタンのスラム街に暮らす子ども達の自立と学校運営を支えるため、古着回収を実施しました。

常総生協 シンボルマークとしての ロゴマーク完成！

2020年度第47回通常総代会にて可決承認された第2号議案の方針および重点課題として、常総生協の「ブランディングの構築」を掲げました。※2020年総代会議案書40Pの2020年度予算方針②-5) 参照

多数の生協がある中、①「常総生協の認知度」を高めること。②他の生協とは一線を画する「常総生協の独自性」をわかりやすくする。ため、シンボリックなマークの必要性があると考えました。

2020年度第5回理事会にて、ロゴマーク作成の企画提案・プロジェクトの進め方の協議、承認を経て、理事会と広告代理店・デザイナーと一緒に、5回におよぶロゴプロジェクト会議を開催。常総生協では初めてとなるロゴマークが完成しました。



<ロゴマーク作成の主要なポイント>

広告代理店・デザイナーから企業ブランディングの基礎を教してもらいながら、以下をロゴマークに反映させました。

- ① 常総生協の理念
 - 「食は生命(いのち)」、協同の精神や役割
 - 常総スピリッツ (つながり、思いやり)
 - 組合員と培ってきた伝統、知恵、工夫の継承
- ② 常総生協の魅力 (組合員の常総生協に対するイメージ)
 - 安心、安全
 - 正直、誠実、真面目
 - いのちを大切にする
 - 信頼できる

※2017年度春の討議資料「常総生協の魅力・セールスポイント」回答を参考
- ③ 第三者からみた常総生協 (みつり企画、他者からの常総生協イメージ)
 - 食に対して真摯に取り組む姿勢
 - 様々な取り組み、活動をしている
- ④ ロゴマークを使用した際の印象
 - マークと常総生協のイメージの一致性
 - 際立っていて、人目に付きやすい

今後、色々な場面でロゴマークが登場していきます。組合員に愛され、地域の人にも認知してもらえるようなマークにしていきたいと思っております。

■ 2021年度事業・予算方針のまとめ

■ 損益状況

- 12月決算（第Ⅲ四半期決算）時点で供給高は前年比95.2%、計画比101.4%。経常剰余+766万円となっています。最終的な年度見通しでは100万円以上の経常剰余を見込んでいる状況です。
- 早期の累積欠損解消を目指し、経営の安定化を図ることが優先課題となっています。
- 人件費（最低賃金の上昇、物流対応の人員増加等）や物件費（資材費、設備費等）が影響して経費は前年を超えている状況です。

2021年4-12月度決算

	【実績】	前年比	予算比
■ 総供給高	760,714,710	94.2%	98.6%
○ 供給剰余	206,820,685	93.8%	99.3%
(GPR)	27.19%		
● 事業総剰余金	209,351,403	93.9%	99.4%
○ 販売管理費計	216,667,444	103.5%	99.0%
● 事業剰余	△ 7,316,041	-53.6%	88.3%
● 経常利益	7,492,112	27.0%	117.4%
(NET)	0.98%		
● 税引前剰余金	7,341,994	26.7%	119.4%

■ 共同購入進捗（2020年4月1回～2021年12月5回時点）

- 2020年度の新型コロナウィルスの自粛の時よりも落ち着いており、大幅な供給高の伸長にはなっていません。
- OCR（注文用紙）発行枚数は昨年よりは増えているものの、計画には追いついていない状況で、仲間づくりの強化が課題となっています。

4月1回～12月5回	実績	前年差	計画差
OCR発行枚数	134,934	△ 2,809	△ 1,848
回収枚数	122,533	△ 4,188	2,352
回収率	90.81%	△ 1.19P	
一人当利用高	¥6,047	△ 316	
利用点数	14.46	△ 0.66	

■ 店舗事業進捗（2021年4月～22年1月）

- 1月時点で売上は前年88.5%です。
- 共同購入同様、昨年と比べて落ち着いた状況となり、来客数含め、減収となりました。
- 商品部の企画会議にも参加し、事前の商品情報を獲得し、店舗のPOPづくりなどを行いました。
- 引き続き来店者、スタッフ共に感染を防ぐための飛沫防護シート、消毒液、サーモ体温測定器を設置し、店内は締め切らないで絶えず換気して、感染拡大防止に努めて営業しました。

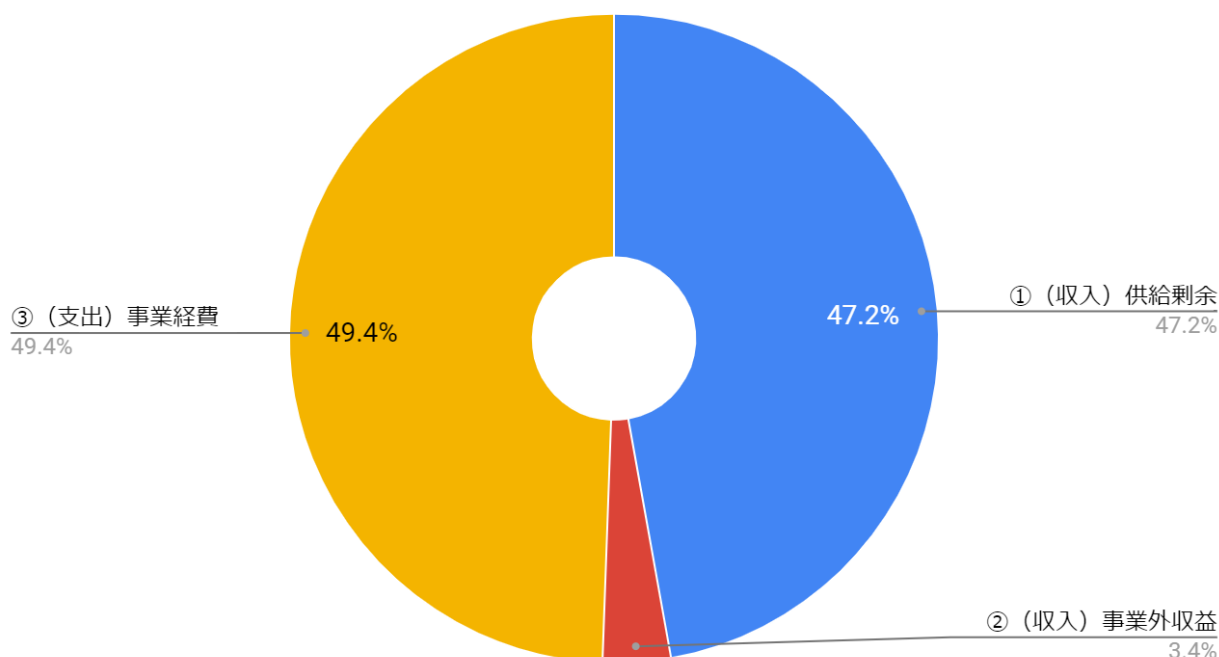
基準年	月	営業日数	客数	前年差	客/日	前年差	税抜売上	前年比
2021	4	26	1,334	-269	51.3	-10	2,633,751	68.9%
2021	5	26	1,350	-224	51.9	-9	2,897,539	85.4%
2021	6	26	1,239	-216	47.7	-8	2,670,545	84.4%
2021	7	27	1,268	-55	47	-2	2,570,569	95.1%
2021	8	23	1,164	-65	50.6	-3	2,477,201	98.9%
2021	9	26	1,253	-35	48.2	-1	2,479,455	92.9%
2021	10	26	1,182	-162	45.5	-4	2,330,843	86.9%
2021	11	26	1,268	-43	48.8	-4	2,548,206	95.4%
2021	12	27	1,458	-166	54	-4	3,885,102	93.7%
2022	1	23	1,047	-88	45.5	-6	2,229,608	91.5%
		256	12,563	-1,323	49.1	-5	26,722,819	88.5%

■ 2021年度における常総生協事業の課題

○損益構造について

・現在収入として、供給剰余（共同購入と店舗の供給高からの剰余）と事業外収益（主に基本料）を足して何とか利益を出しているような状況です。供給剰余で経費（支出）を賄っていく事がベースとならないと持続可能な経営にはなりません。

2021年度4-12月決算状況から見える収益構造



○事業・予算方針

1. 累積欠損解消に向けて、黒字経営を継続させていきます。
2. 配送センターの拡充及びその施策
3. 生産者の高齢化に伴う、持続可能な有機農業推進計画
4. 持続可能な職場作り（働き方改革）

1. 累積欠損解消に向けて、黒字経営を継続させていきます。

1) 組合員拡大状況

加入累計実績

加入部門	4-1月累計					
	前年実績	構成比	今年度	構成比	発行比	実績前年比
1.組合員紹介	69	25.7%	51	15.0%	15.0%	73.9%
2.戸別訪問	66	24.6%	100	29.5%	29.5%	151.5%
3.ポスティング	7	2.6%	10	2.9%	2.9%	142.9%
4.ポスティング（折り込み）	3	1.1%	0	0.0%	0.0%	0.0%
5.催事	1	0.4%	88	26.0%	26.0%	8800.0%
6.Web加入	29	10.8%	24	7.1%	7.1%	82.8%
7.HP	75	28.0%	37	10.9%	10.9%	49.3%
8.展示即売会	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	#DIV/0!
9.ブチパーティ	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	#DIV/0!
10.講習会	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	#DIV/0!
11.外部委託	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	#DIV/0!
12.その他（再加入・労金・共済、関係者加入）	18	6.7%	29	8.6%	8.6%	161.1%
合計	268	100.0%	339	100.0%	100.0%	126.5%

- 生協ネットワーク21の仲間でもある、あいコープみやぎと仲間づくりについて研修・学習会を実施しました。その成果もあり、戸別訪問、催事（イベント）で加入獲得することができるようになりました。
- 仲間づくりにおいては、スタッフを増やす事、効果的な広報戦略をつくる事の2つが大きな課題となっています。

毎月の増減

	加入	再開	脱退&休眠	増減	計画増減	計画差	計画比
4月	31	13	41	3	13	-10	23.1%
5月	34	12	39	7	18	-11	38.9%
6月	51	10	42	19	17	2	111.8%
7月	40	14	52	2	5	-3	40.0%
8月	25	22	31	16	0	16	#DIV/0!
9月	23	16	54	-15	7	-22	-214.3%
10月	44	15	26	33	16	17	206.3%
11月	31	12	46	-3	22	-25	-13.6%
12月	27	11	57	-19	4	-23	-475.0%
1月	33	20	61	-8	1	-9	-800.0%
合計	342	148	455	35	100	-65	35.0%

2) 「JOSOわいど」の発行

長きにわたり、「組合員からの声（総代会討議資料アンケートやご意見欄）」では、「ラインナップが少ない」「商品を増やして欲しい」などの意見や、休会・脱退した組合員からは「注文したいものがない」「高くても買えないものがない」などの理由が挙げられていました。昨年の「新型コロナウィルス実態調査アンケート」より、何らかの給付金を受けていることから所得への影響がみられました。

これらの意見を反映すべく、カタログ増ページにて改善を図ると同時に、コロナ禍において不要不急の外出を控える、家族の在宅時間が増えるなどの生活変容に対して、組合員のニーズに合わせた商品をお届けする目的でJOSOわいどの作成に取り組んできました。

新型コロナウィルスは人々に対して「自粛」という強制力によるストレスを与えており、食事に関しても濃厚接触者になれば買い出しにもいけないかも知れないという不安とリスクが常に隣り合わせの生活です。この状況は非常事態だと考えています。

現在の供給高は「コロナによる需要」であり、決して生協の努力で供給高が伸びているわけではない。コロナが落ち着いたあとでも、きちんと供給高を確保できるように、商品を充実させる。今までの理念を大切にしつつ、**プラスαの商品拡充をすることが、この非常事態同等の状況に対する対応と考えて、常総生協の商品選定基準について見直し、アミノ酸等の最低限の添加物を許容したカタログとして「JOSOわいど」を発行しました。**

1. 2021年度総代会事業方針にてコロナショックが起きる予想での商品ラインナップの拡充。
 - a. 組合員の生活の多様化は著しく、働きたくても働きにいけない生活環境（学校の休校、テレワーク推進）がある。
2. ニーズに取り組んだ商品展開
 - a. ミールキット、離乳食の取り扱いによる、商品カテゴリーの拡がり、冷凍食品のラインナップ増に対応するためのページ増

実績の振り返り

- 子育て世代35～50代に向けて利用しやすい価格帯と簡便性を重視した媒体だったが、高齢者層の利用が多い事が分かりました。

- 相対的に65歳以上の組合員構成比が高いですが、世代利用率も等しく高齢者層(特に75～89歳)が多かったです。→台所事情の変化(包丁が持てなくなった、家族内人数の減少)やコロナ不況による所得確保の難しさが伺えます。
- 生協歴15年未満が売上構成比の約50%を占める結果となりました。
- 低利用組合員ほど圧倒的に利用頻度が多く、ニーズに応えた媒体といえます。
- 一方で生協歴が長い組合員、且つ「常総生協を支え続けてくれているコアな組合員」にとっては利用は少ない事が分かりました。

組合員の意見

- HPからの問合せフォーム、現場での意見をまとめたもので件数は10件ありました。10件のうち、JOSOわいどに対して肯定的な意見は7件、否定的な意見は3件でした。

JOSOわいどの今後の進め方

発行して半年経過して、添加物の影響を改めて再確認し、商品基準の見直しをしていきます。

1. JOSOわいどを見ると、高齢層ほどJOSOわいどの利用率が高く(70代～全体の30%、80代～全体の40%が利用)、低価格利用者ほどJOSOわいどの利用率が著しく高かったです。つまり安心安全にこだわりがある一方で、経済的・身体的にこだわりを貫くのが難しい組合員のニーズを汲んでいるという事が分かりました。
2. 反省点
 - a. **JOSOわいどの商品の中にはアミノ酸が入っている物があります等のお知らせ、発信力が弱かった。**
 - i. このアミノ酸は、美味しくない物でもおいしく感じさせる魅惑の添加物。摂取し続けることで、素材本来の味を味わえない味覚になると懸念されています。素材を大事にする常総生協ではできる限りこういった添加物が入っていない物を選んでいますが、一部の商品に含まれている場合があります。「食品表示を参照してご購入ください」という説明、発信をもっとすべきで、添加物の身体への影響を考えると見直しをしていくべきと考えます。
3. 今後の進め方
 - a. 常総生協の理念を大切にしつつも、「お弁当用のおかずや、お昼ごはんに好評の冷凍食品の品揃え」「利便性が高く、リーズナブルな商品」のニーズはここ数年で高まってきています。ここまでの実績情報を無駄にせず、生産者と共に「JOSOわいど」の商品開発をおこなっていきたくて考えております。
 - b. 「JOSOわいど」の発展性として、商品基準を引き上げ、「アミノ酸」「リン酸塩Na」の商品を外し、手作りに近いものをラインナップしていきます。
 - c. 既存生産者からの企画協力を促していきます。

3) リモート、テレワーク環境の整備

- テレワークができるようにリモートできる仕組みを構築しました。
- グループウェアを導入し、職員・部署間のコミュニケーションの充実化を図りました。
- 上記を活用するうえでの職員学習を深めていく事が課題です。

2. 配送センターの拡充及びその施策

「JOSOわいど」発行に伴い、商品ラインナップが拡充されました。冷凍商品のセットを

2回転して対応してきました。セット時間も増えたこともありましたが、今までの概念を変えて取り組むことができ、大きな成果となりました。

3. 生産者の高齢化に伴う、持続可能な有機農業推進計画

○コープ有機関東支所の立ち上げ

農産物の安定供給、継続的な生産者皆様との関係は私たちにとっての最重要課題と考えています。

生協の根幹となる農産物取引に関して近年、単協での取引量の減少における物流コストの増大、物流網が構築できない事によるコールドチェーンの問題、産地とのコミュニケーション不足による生育・品質管理の問題に起因する品質劣化、欠品、生産者の高齢化など課題が大きくなっており、将来に渡り生産者・取引先皆様と協力した産直事業をすすめていくためには、生協としても、これらの課題を解決すべく取り組みをすすめていかなければなりません。

生協ネットワーク21（※①）の友好生協と話し合い、農産の専門機関『株式会社コープ有機』（※②）に出資し、共同調達、共同物流（構築）、共同産地開発を目的とした共同事業に参加する事を決定いたしました。この共同事業には生協ネットワーク21 関東4生協、よつ葉生活協同組合（栃木県）、常総生活協同組合（茨城県）、生活協同組合ナチュラルコープヨコハマ（神奈川県）、自然派くらぶ生活協同組合（東京都）が参加する事となり『株式会社コープ有機関東支所』を設立し関東圏での共同運営をおこないます。

一生協での課題解決は規模が小さく困難なため、関東の友好生協4生協と一緒に課題に取り組むことにいたしました。この共同事業をもとに取引・取扱量の増加、物流網の構築、コールドチェーンの改善等をすすめていく所存です。

また、今後の発展として生産者の育成の観点から「有機の学校」の設立も検討しています。

<生協ネットワーク21> ※①

組合員や地域、取引先や生産者との顔の見える関係を大切にしながら、事業活動を進める生協連合会・地域生協が参加し、各々の事業活動に貢献する事を目指し、活動の交流、共同事業を通じて連帯を深め、事業を発展させる事を目的としている任意団体です。東北・関東・東海・関西・四国に拠点を置く、8生協・2事業連合（あいコープみやぎ、あいコープふくしま、よつ葉生協、常総生協、なのはな生協、自然派くらぶ生協、ナチュラルコープヨコハマ、やまゆり生協、生協連合会アイチョイス、コープ自然派事業連合）が参加しています。

<株式会社コープ有機> ※②

関西、四国の生活協同組合連合会コープ自然派事業連合や名古屋を中心とした東海の生活協同組合連合会アイチョイス事業連合の農産。米部門を担う会社で、企画、開発、生産管理。また、農産物の集荷、有機農産物を含む小分け、(お米については精米)などの物流を基本業務としています。組合員の誰もが、有機農産物や特別栽培の農産物を食べられる社会実現のため、各生協と協力して農産、米部門の課題に対して取り組んでおります。

4. 持続可能な職場作り（働き方改革）

- 産業医と契約し、1か月に1度職場環境について考え、学びあう衛生委員会を開催しました。それに伴い、ストレスチェックを実施、健康診断を産業医と共有し、生協として働いている職員に対してのリスクマネジメントに取り組みました。
- クラウド勤怠管理システムを導入し、超過労働、有給残数等の管理を見える化するようになりました。
- オートアテンドを導入し、電話が必要な部署・人につながるようにしました。これによって職員の作業の中断が少なくなりました。
 - オートアテンドとは・・・指定の外線に電話がかかってきたときに、内線電話番号などの音声案内を流して、応対することができます。また、階層分けできるので、担当の部門が細かく分かれていても、自動音声で番号を案内することができます。
- ハラスメント学習会開催
 - 4/1より義務化される「パワハラ防止措置」に向けて、マネージャー以上の幹部職員7名を対象にリコージャパン(株)より講師を招いて開催しました。
 - 職員間のコミュニケーションの大切さを学びました。

2022年度活動テーマ（案）

つくと食べるでつながろう ～私たちの地産地消～

まもなく常総生協は50周年を迎えます。その歴史を紐解けば、現在の産直の仕組みや地産地消を早くから捉え、身土不二の考えと共に歩んできました。だからこそ、作る人(生産者)と食べる人(組合員)の顔が見える関係を育み、今日の常総生協があります。

顔が見える関係だから成し得た昨年大豆プロジェクトでは、無農薬・無化学肥料で栽培する苦勞、地産だけで地消を補う難しさを体験し、作物を作ることの尊さを学びました。

また、工場で作られている常総生協の冷凍食品や加工品に使われている材料も、それぞれの地元で培われた食材です。旬の作物や地消できない分を冷凍や加工することで、多くの人に届けることができ、地元の食材を無駄にすることなく、私たちの食と同時に地域を守る事ができます。

人の手で作り出す尊い地元の食材を日々の食卓でいただける、だからこそ、感謝の気持ちとともに余すことなく食べるなど、地産地消は食べることの大切さや命の尊さを身に付けるきっかけにもなります。

近年、フードマイレージの面からも、環境への負荷が少ない地産地消が注目されています。それぞれの地産地消による食を守るための取り組みが繋がれば、環境面でも地域から、日本へ、ひいては地球全体へと広がります。

常総生協が取り組んできた地産地消から見えてくること、学んだことから、つくと食べるが繋がって、私たちの食の未来を守っていきましょう。

○2022年度活動方針（案）

1. 「つくと食べるでつながろう ～私たちの地産地消～」をテーマに各活動、他団体、組合員交流を実践していきます。
2. 食の問題に対して取り組む事を継続していきます。
3. いのちを育み、守る取り組みをしていきます。
4. 平和・環境・地域コミュニティの活動に取り組んでいきます。
5. 中期計画策定の準備に入ります。
6. 生産者・他団体との協同連携をすすめていきます。

■事業・予算検討方針（案）

（2022年度予算骨子）

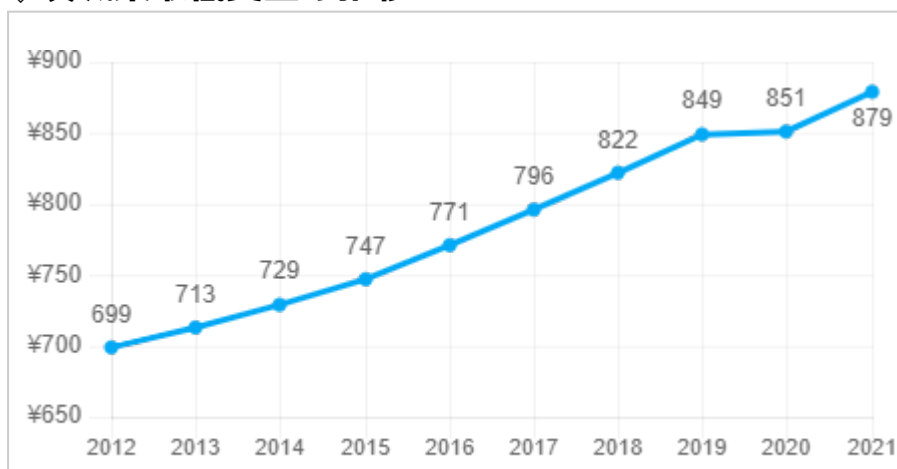
1. 組合員拡大500名、一人当たり6,000円を目標とします。
2. 引き続きwithコロナによる生協事業・活動推進を検討した予算立てをします。
3. 常総生協創立50周年（2025年）に向けて取り組みます。
4. 配達料の導入を検討していきます。
5. 生協事業の発展を目指し、連帯事業及び連合会設立に向けて取り組みます。

4. 配達料導入を検討していきます。

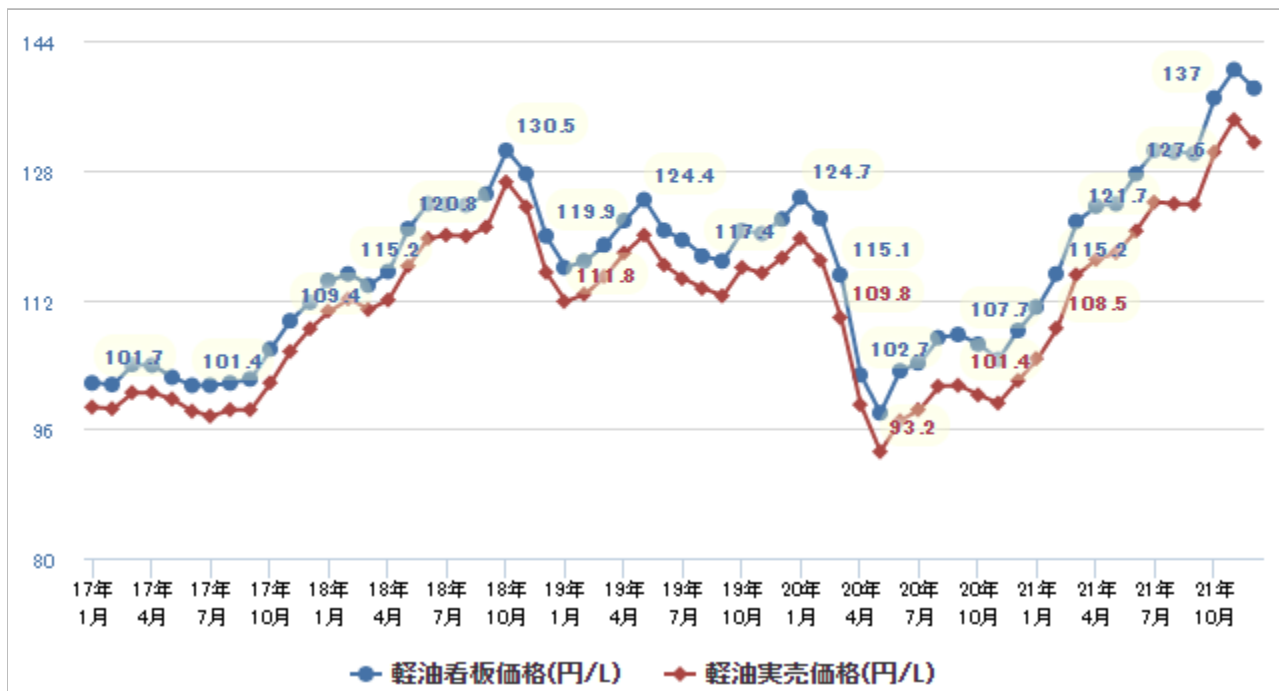
ここ数年のガソリン代、資材の高騰（通い箱やオリコン、通い袋・・・等）、最低賃金の値上がりにより、経費は上昇しています。

供給にかかるコスト（燃料費、人件費、資材費、車両整備）を補足し、安定して事業を継続できる経営をめざし、配達料を導入を考えています。

◇茨城県最低賃金の推移



◇ガソリン代の高騰



▽2022年度 第一次予算案

- 組員拡大500名、純増62名としています。
- 5,969円/人、回収90.1%
- 配達料を導入していない形式の予算案です。事業剰余で黒字化が難しい状況です。
- 経営的に余力がないため、人材確保や、補充に予算が立てられていません。
- 資材、最低賃金が上がっているため、経費（支出）は2021年度より大きくなる見込みです。
- 定年退職者に伴い、新たな人材確保、育成が急務となります。

(二次案に向けて)

- 供給高の見直し（事業計画の精査）
- 経費のすり合わせ
- 資金繰りの精査
- 2022年度の活動内容を経費勘定していきます。
- 配達料導入した場合のメリット、デメリットのシュミレーション

	2022計画
I 供給事業	
■ 総供給高	998,921,333
共同購入供給高	963,608,264
店舗供給高	35,313,069
○ 供給剰余	272,117,278
(GPR)	27.24%
共済受託、受取手数料	3,268,566
配達料	0
II その他の事業収入計	3,268,566
● 事業総剰余金	275,385,844
人件費小計	170,622,306
(人件費比率)	17.08%
(労働分配率)	62.70%
物件費小計	122,970,228
(物件費比率)	12.31%
○ 一般管理費計	293,592,534
● 事業剰余	(18,206,690)
● 経常利益	1,542,224
(NET)	0.15%
● 純損益	1,173,104

2021年度 ふりかえり 食とくらしの点検

※アンケート締め切り:2022年4月1日(金)まで、裏面もあります。切り取ってお使いください。

組合員番号:

コース名:

組合員名:

1.食事の心がけ ※☑つけてください。複数回答可

- 旬のものを心がけて食べました。
- 背筋を伸ばして、よく噛んでゆっくり食事ができました。
- 栄養面で偏らない食事が出来ました。
- なるべく家族で食事することが出来ました。

2.食事の基本 日本型食生活 ※☑つけてください。複数回答可

- 主食(雑穀)はご飯、雑穀などの穀物を摂り入れました。
- 青魚を食べる様になりました。
- 肉・卵・牛乳は「良質・適量」を心がけ、食べ過ぎないように気をつけました。
- 植物性タンパク「大豆・大豆加工品」を毎日食べました
- 野菜は緑黄色野菜を組み合わせて毎日の食事に取り入れました。
- 食物繊維豊富な乾物・豆類を増やせました。
- 海藻を食べるように心がけました。
- 味噌・納豆・漬物などの「発酵食品」を常食できました。
- 「揚げ物」の頻度を抑えられました。
- 「外食」を減らしました。

3.調理技術の基礎 ※☑つけてください。複数回答可

6.食とくらしの点検表をつけてみて感想

- 素材や調味料の目安を体得して無駄のない使い方ができました。
- ダシ(煮干・昆布・かつお節)を取りました。

4.くらしの見直し ※☑つけてください。複数回答可

- 電気や石油をなるべく使わない生活を心がけました。
- ゴミを削減できました。
- 油は捨てないで、使い切りました。
- 石けん洗剤を使いました。
- 節水を心がけました。
- 加工食品からなるべく手作り食へ切り替えを心がけました。
- 緊急時に備え、備蓄を心がけました。
- 地産地消を考えて購入しました。
- なるべく車を使わないようにしました。
- 自分で作物を作りました(家庭菜園)。

5.家族の健康状態 ※☑つけてください。複数回答可

- 体調がよくなった。
- 快食・快眠・快便です。
- 家族みんな元気です。
- 風邪をひきにくくなった。
- 病院通いが少なくなった。
- その他 ()

あてはまる数を数えてみよう。→ _____/32項目

回答・意見・提案用紙

【1】2021年度 ふりかえりについて

回答・意見・提案・感想等ありましたらご記入下さい。

【2】2022年度 生協方針検討 みんなで取り組みたい事

回答・意見・提案・感想等ありましたらご記入下さい。

アンケート締め切り:2022年4月1日(金)まで